



ドイツに関して

柴田 大

Shibata Masaru

編集者の方に「最近、ドイツに移ったそうなので、何か書いていただけませんか?」と言われ引き受けてしまったのだが、移住後1年も経たず、ドイツについての深い知識はまだない。ただ、ドイツ人の特徴やドイツ人に対する日本人の思い違いが徐々に分かってきた。そこで、ここではそれらを述べよう。

まず、多くの日本人が持つドイツ人に対する印象について。「僕はドイツに住んでいます」と日本国内で言うと、多くの方から「ドイツ人は勤勉でしょう」と尋ねられる。僕もドイツに来るまではドイツ人＝勤勉と信じていたが、正確には、ヨーロッパの他国との比較で勤勉ということで、ドイツ在住の日本人から見れば「?」のようである。

一方、決められたルールを守るという点では日本人よりも優れている。例えば、バス停での違法駐車等は日本と違ってほとんど見かけない。日本では最近、自転車専用レーンが整備され始めたが、車が違法駐車してしまうため役に立たないことがよくある。一方ドイツでは、そういう現場はあまり見かけない。

食生活は対照的である。日本食は種類が豊富だが、ドイツ食は肉とポテトが中心になるため単調である。ただし、ビールや白ワインが安くて美味しいことや、ヨーロッパの経済統合のせいか、果物や野菜が安く手に入るのは日本よりも良い点である。

電車の正確さは日本が圧倒的に優れている。ベルリンでは電車が時刻通り来ないことなど日常茶飯事である。遅れる程度ならまだましで、突如キャンセルということも少なくない。一方、混み具合で言えば、ドイツの電車は大都市でも日本ほど混まない。バスも日本の都市圏でのような大渋滞に遭うことは

ない。日本と違い、都市に人が集中せず、各地方に分散して住んでいるのが良いのだろう。ただし、ベルリン等大都市に関しては、人口の急増が引き起こす家賃上昇が問題になっており、今後注視する必要がある。

ドイツの方が確実に良い点は、蚊がいないことである。これは素晴らしい。一方、蠅は多い。しかも大きく、羽音も大きい。ドイツでは網戸がないアパートが多いため、夏になり窓を開けると蠅が入ってくるのだが、これにどう対処するかは毎夏の課題である。

研究面では、少なくとも現在はドイツの方が恵まれていそうだ。日本では研究機関の約9割が大学だが、その予算は毎年減るため、研究費と教員数が単調減少している。その結果、予算減と人員減の補填対策のための会議が増え、研究時間が減ることが、そこら中で起こっている。また、研究費も最長で5年程度しか保証されないため、長期的な視野で研究をしにくいというのもよく聞く問題である。一方ドイツでは、研究を主業務とする機関が多数あり、またそのような機関では予算が長期的に安定して配分される。その結果、長期的ビジョンの研究が可能になる。日本に比べ、研究者に対する国の信用が高いからなのだろう。

最後にドイツ人の特徴について。ドイツ人は自身が関わる問題には誤解を避けるため(おそらく自己防衛のため)非常に正確な物言いをするが、自分自身が無関係な時には楽観的な意見を言う印象が強い。日本では、楽観的な予想に反して物事がスムーズに進まないと対人関係に支障をきたすので慎重な物言いが多くなるが、ドイツでは違う。判断は「個人の自由」の国だからだろう。したがって、日本での習慣のままドイツ人の言うことを鵜呑みにして行動すると、後に面倒な目に遭うことがある。この点を学習したことが現段階の最大の収穫である。

(京都大学 基礎物理学研究所)

[2018年度仁科記念賞受賞者]